

3. 活動内容

(1) 1年生大尾山トレッキング

1年生の大尾山トレッキングでは杉やヒノキが植林されている学区の山に登り、地域の様子を学んだ。ガイドは地域のボランティアの方を中心に学区内の NPO 法人の協力を得て構成され、大尾山に登りながら植樹されている樹木の説明や里山の特徴をお話していただいた。トレッキングの後半では森林組合の方に樹木の伐採方法や、里山の管理方法、日常の業務内容などについてお話をしていただいた。また、なぜ林業に就こうと思ったのか、この仕事にはどのような難しさがあるのかといった内容をお話していただいた。(資料1～3)

(2) 丸太ベンチ贈呈式

本校を会場に学区内の幼保園や地区センターなどにベンチの贈呈式を行った。本校生徒にとっては丸太の状態から加工したベンチが地域で利用されることを実感し、達成感がある1日となった。また本校の特色の1つの学校林があることやその環境保全を行っていること、間伐材がベンチのような形で利用できることを本校生徒の全員が知り、地域に発信する機会となった。(資料4)

(3) 学校林の間伐体験

夏休みを利用して環境委員会とユネスコ委員会が学校林の間伐体験を行った。これは学区内の NPO 法人「時の寿の森クラブ」の協力を得て行った。林の下草刈りや、植樹体験、木の伐採体験などを行うが、今年度は実際にチェーンソーを使用して木を切る体験も行った。高さ6メートルほどの細い木であっても樹齢30年ほどと知り、生徒は驚いた様子だった。森林の資源を持続して利用するためには木を植えることだけではなく人の手が必要であることや、数十年という長い目で見れば森林資源は持続利用可能だということも学んだ。(資料5～8)

(4) ベンチ作成

今年度の新入生も間伐材を利用して丸太ベンチを作成した。木材加工の技術を学びながら、木の特徴について学ぶことができた。丸太の断面を見て枝打ちをして成長した木材であるかどうか、わかるようになった生徒や杉とヒノキのような一見すると似ている木材であっても硬さが違い、加工しやすさが異なるということがわかった生徒も多かった。間伐体験を行った生徒は間伐材が植えられた場所を知っているので、木材の樹齢について話す様子も見られた。(資料9～10)

(5) リサイクル活動

本校では年間6回のリサイクル活動を行っている。各家庭から古紙やダンボールを集める活動には保護者、生徒ともに90%程度参加している。また福祉委員会が中心となり、エコキャップ回収運動を行っている。どちらも活動自体は活発に行われているが、今後は集めた資源がどのように再利用されているのか、資源の節約に寄与しているのか生徒自身が実感できるように知らせることも課題である。(資料11～12)

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）